

第 46 回日本皮膚科學會岡山地方會演說抄録

昭和 15 年 12 月 22 日—於岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室

先天性對側狀色素異常症に就て

勝 山 英 昌 (岡大皮)

最近經驗せし先天性對側狀色素異常症に就き種種なる検査を試み、2, 3 知見を得たるを以て發表せり。詳細は原著に譲る。

潜伏黴毒の視聽循環器障礙に就て

勝 山 英 昌 (岡大皮)

井 手 守 義 (岡大耳)

後天性潜伏黴毒患者の眼底、内耳、大動脈を検査せり。詳細は原著に譲る。

先天性魚鱗症に就て

須 賀 清 次 郎 (岡大皮)

追て原著として發表の豫定。

實驗黴毒に於ける含水炭素代謝に就て

Neospirarsen 及び Milaneuen の影響

(第 2 報)

黒 山 眞 吾 (岡大皮)

原著として發表す。

蒼鉛劑の吸収並に排泄に關する研究

(第 8 報)

石 天 之 樞 (岡大皮)

原著として岡山醫學會雜誌に追つて發表する豫定。

追 加 根 岸 博

蒼鉛劑は不溶性又は油溶性として使用するが最も驅黴療法に適するものにして水溶性のものは不適當なるものなることを實驗上より述べ。

淋疾に對する「トリアノン」の治験例

岡 崎 正 敏 (岡大皮)

當教室外來に來れる淋疾患者に「トリアノン」1日 3g 宛投與し局所洗滌を併用しつつ排膿尿濁濁、排尿痛、尿道外口發赤、腫脹の状態を見るに急性、慢性患者共に奏效せるを認めた。

質 問 立 花 岩 吉

「トリアノン」使用時血尿及び尿結石はなきや、又重曹は同量混和內服せしめらるや。

皮膚電解質と皮膚感受性に就て

(第 3 報)

江 原 敏 夫 (岡大皮)

追て原著として發表の豫定。

腎結核と腸結核との關係に就て

和 田 雅 之 (岡大皮)

演者は 2 例の右腎結核患者に於て其の手術後瘻孔の閉鎖に先立ち腸結核を併發しこれが腎手術後の瘻孔に破れて瘻管を形成せる症例を報告した。何れも不幸な轉歸をとつた。

少女に發生せる膀胱内 Cystin 結石の

1 例 和 田 雅 之 (岡大皮)

8 歳の少女の膀胱結石を碎石術により取り出しこれを検査した所純 Cystin 結石なる事がわかつた例を報告し更に結石の實物、レントゲン寫眞、Cystin の結晶を供覽し同時に割り難い石で有つた事等當時の情況を簡単に述べ、最後に我教室に於ける最近 10 年間の膀胱結石症に就ての小統計をも附け加へた。

癩性齒槽萎縮に就て

上尾 登 (愛生園)

本症は其の適確な記載を文獻に見難いものなり。之は結節癩重症患者に發現し、其の好發部位は上顎前齒部とし、其の臨牀所見は余の言ふ孤形萎縮を特異症状となす。レントゲン像にて齒槽骨の萎縮と齒齦膜腔の増大を認める。病理組織學的所見では齒牙及び其の支持組織に於ける著明な癩性變化と齒槽骨の纖維化が認められる。詳細は原著として「レブラ」に發表の豫定。

尿道内硬性下疳の1例

前田 哲夫 (玉三井病院)

33歳男子、舟状窩に硬性下疳を生じ不完全治療のため日ならずして尿道内に再硬結を生じ同時に蕁麻疹を前驅として項部及び胸鎖乳頭部に丘疹を生じ之等は治療により1度は消失したが、治療不完全のため尿道内に又再硬結を生じ、丘疹再發且微毒性色素増殖を生じ、且發熱等全身症状を以て *Dolores Osteocopi* まで生ずるに至つた1例を報告せり (胸部、項部の丘疹寫眞及び骨膜炎のレ線寫眞を供覽せり)。

家兎血中並に皮膚内總「ビタミンC」に對する饑餓の影響

伊藤 誠爾 (岡大皮)

追て原著として發表の豫定。

Leishmanioses cutis の1例

橋 英基 (岡大皮)

26歳男、約1箇月前ブラチルより上船歸國の途につく、船中にて右前膊外側に1丘疹あり、これが漸次潰瘍となつた。自覺症は餘りない、某醫により「サルワルサン」3本注射受けたが治療の傾向がないと。診るに2錢銅貨大卵圓形の潰瘍あり周圍との境界明劃、少し紅暈あり硬結は餘りなく輕

度の壓痛あり、血液性漿液分泌物あり、面は乳嚢様鮮紅色の内芽である、邊緣は少しく浸蝕性である、微毒血清反應陰性、ビルケ氏反應陰性、眼、口腔、咽頭、鼻粘膜に異常なく内臟諸器官も異常ない、淋巴腺腫も觸れない、局所分泌物の塗抹標本のGiemsa染色にて核を有せる紡錘狀の原蟲多數發見した、「アンチモン製劑」注射により局所は漸次癒痕様となり治療に向ふ、目下治療中「ムラヂ」及び着色圖供覽)。

移植腎に於ける實驗的研究 (第2報)

橋 英基 (岡大皮)

原著に譲る。

愛生園に於ける「マラリア」及び「アノフェーレス」蚊に就て

内田 守 (愛生園)
宮田 唯夫

昭和13年迄は、本園に於ては「マラリア」の發生を認めず。然るに昭和13年以降、滿洲國及び大陸と交渉ありたる癩患者の入園するに至り、「マラリア」の發生を認む、本園に癩患者として、大陸及び其の他と關係あるもの約20名許りを數ふ。其中、彼の地に於て、「マラリア」に罹患せるもの2名にして、之等は、時々其の後再發して、今尚ほ根治せざる状態にあり。職員に於ては、大陸及び其の他と關係あるもの5名にして、其の中2名は「マラリア」に罹患せしことありて、今尚ほ根治せず。本年に至りて、大陸と關係なき癩患者に、4名の「マラリア3日熱」患者を發生す。其の中1名は、他の疾患により入室療養中に發症せり。他の1名は、嘔氣及び嘔吐を以て、左右の腹側の疼痛を主訴とし、熱發作も不規則にして、毎夜發熱することもあり、膽石症若くは腎臟結石なるやを思はしめたるも、其の經過中脾臟部位に疼痛固定せるを以て、血液検査の結果、3日熱原蟲を認めたるものなり。他の2名は、3日熱の定型的のも

のなり。結節癩に於ては、脾臓の腫脹は稀ならざるを以て、癩患者に於ては、脾腫は、「マラリア」の診断の一示標とならず、寧ろ脾臓部位の緊張感又は疼痛が主要なる示標となることを経験す。

「マラリア」の媒介として、「アノフェレス」蚊以外に「ノミ」、南京蟲、普通の蚊等を以て、考へる一部の人々もある如く聞く。然れども、「アノフェレス」蚊の存否を長島に於て調査せしに、即ち羽根の斑紋と、其の體を斜にして物體に静止することの2點を「アノフェレス」の特徴とすれば、かかる蚊は、癩患者地帯に於ては、20匹前後捕へたり。職員の官舎地帯に於ては、100匹の蚊の中、1—2匹を認めたり。職員に於ては、再發者以外に、「マラリア」患者の發生を見ず。「アノフェレス」蚊の確實なる%及び其の種類等に就て、尙ほ其の幼蟲の分布等に就ては、今後の研究發表に譲る。斯くて、「マラリア」豫防としては、蚊の驅除も重要なことを信ず。

追加 神官良一

既往歴ある者 30 名にて園内再發者 8 名、既往歴無き者にて發症 8 名、計 16 名は「マラリア」患者あり、發作回数は 2 回の者 2、1 回の者 14、3 日熱 15 例、「慢性マラリア」1 例なり、「アノフェレス」も數節には計算せざるも 5、6 月頃比較的多數發生するものには非らざるか。

Sulfonamid の副作用に就て

中西正男(岡山)

Trianon 1 日 3g、1 週間連用後發熱と共に Scharlach 様發疹を全身に生じ約 1 週間にして自然消褪す。局方「スルファミン」靜脈注射後數時間にして大腿内側に 50 錢銅貨大多數の紅斑を生じ瘙痒甚し翌日は紫赤色となり約 10 日後消失せる 2 例に就て述ぶ。

追加 關藤忠雄

Trianon 内服 2 日間にして眩暈、嘔吐嘔心あ

り「ツエラトミン」注射により恢復す。

2—3 臨牀治験例

關藤忠雄(倉敷)

1. 數「クール」の驅徹療法にも血清反應陰性とならざる患者に「ミノフアーゲン」15 回なして血清反應陰性となれり。又「サルベルサン」特異質のために治療に困難したる神經痛を訴ふる患者に「ミノフアーゲン」6 回なして神經痛治癒せり。
2. 34 歳男、驅徹療法後 1 箇月にして口腔内に壞疽を生じ發熱し怒にして重篤となりし患者を貧血性出血を伴ふ「アグラヌロチトーゼ」と診断したるを述ぶ。

驅徹劑「ネオ、スピラルゼン」使用經驗

立花岩吉(岡山)

「ネオ、スピラルゼン」は武田製「ネオ、アルゼノベンゾール」に關する驅徹劑にして、余は昭和 13 年 6 月以來昭和 15 年 10 月迄に於て 1 號 390 本、2 號 600 本、3 號 540 本、4 號 150 本を使用したり。溶解度は 0.4% 食鹽水に溶解するに從來の「ネオ、アルゼノベンゾール」より少し難溶性なり、臭氣も稍々強し、然れども驅徹劑としての効果は最良にして、特に強調すべきは重篤なる副作用に 1 回も際會せざる事なり。使用經驗により「ネオ、スピラルゼン」は最優秀の「ネオ、アルゼノベンゾール」として推賞するに足る。

侵蝕性下疳治験例

平松直(岡山)

患者は 41 歳の男子、初診時陰莖は約 2/3 を侵されるも之は皮膚のみにして龜頭、尿道海綿體、兩側鼠蹊腺、筋肉等は侵されず、よつて侵蝕性下疳に對する種々の局所療法、注射療法、内服療法及び理學的療法を行ひワ氏反應強陽性なる故驅徹療法を行ひしも少しも快方に向はず次第に潰瘍性陰莖皮膚全體を侵し尙ほ進んで陰莖根部より上方、

兩側内股部、陰囊に向つて四方に約3cmの皮膚を侵し尙ほ停止する處を知らざる故遂に潰瘍全面を「バクレン」にて焼灼し尙ほ患部のみならず接觸する健康皮膚も約1cm位焼灼せり、爾來防腐處置にてさしも湧甚なりし下疳も遂に前後6箇月にして全面に瘢痕を形成して治癒せり。余は此際「デュグレン」により發熱療法を行ひ得ざりしは残念なり。尙ほ患者は治癒後局所の疼痛のため「モヒ中毒」となり實に悲惨なるものなり。

泌尿器疾患に對する電熱治療器

平松直(岡山)

著者は泌尿器疾患に對する電熱治療器を供覽し其の使用法を述べ、特に慢性淋疾、膀胱、尿道の神經性疾患(尿意頻數)陰萎、早漏等に對し有效なることを例證せり。

癩屍に見たる異常腎の2,3に就て

神宮良一(光明園)

1. 片側腎 盛○壽○ 33歳 結節癩

入院、大正14年4月25日。死亡、昭和15年10月2日。

重症結節癩にて常に全身の絞扼感を訴へ、又四肢及び全身の強直感を訴ふ。各反射機能の亢進ありき。尿の所見特に異常成分を見ず、時に其の量の少なきことはありき。腹部にも異常腫瘍等を見ず、壓すれば神経過敏の爲め壓痛を腹部全體に訴ふ。解剖の結果、左肺膿瘍、癒着性肋膜炎等にして、左腎は全くこれを缺く。右腎は大き10.5×6.5×3.2cm、重さ180gにして左側は腎の動脈もなく全く缺如す。膀胱に於ても排泄口は片側のみなり。余は先天性のものなり。

2. 著明なる腎囊腫の1例 高○龜○ 53歳 神經癩 入院、昭和8年12月。死亡、昭和15年10月18日。

本患者は長い間胃潰瘍にて時々吐血せしものに

して貧血をなせり。一時は胃痛ならずやの疑もありしが、腫瘍等を觸れず、本年9月には腦溢血を起す、又尿中には多量の蛋白を證明す。解剖診斷、腦溢血、腦軟化、氣管枝炎、動脈硬變症、胃及び十二指腸の瘢痕並に腎囊腫、腎石、左腎は大き1.3×6.5×3.5 重さ320g、右腎は大き1.4×8.0×5.0 重さ400g 表面及び剖面に大小無数の囊腫を形成して殆ど腎實質は萎縮せるものの如し。右側にありては樹枝状を起せる稍々大なる結石を證明せり。

3. 發育不全腎 植○増○ 53歳 結節癩 入院、昭和14年7月。死亡、昭和15年11月25日。

本患者は丹毒、或は加答兒性黃疸、又は腎臟炎等て入室し遂に腎臟炎にて死亡す。解剖診斷、慢性腎炎、腎臟結石、心臟肥大、胸水及び腹水等 左腎の大き13×7×4cm 重さ300g 右腎の大き3×1.7×0.5 重さ8g 左腎稍々大なる感あり、剖面は腎炎の像を呈す、腎盂中に大小數箇の結石あり、右腎は甚しく小にして、剖面殆ど結締織化せる觀を呈す。輸尿管は閉鎖す、膀胱開口部に於ても唯痕跡あるに過ぎず。

癩の新たらしい見方

野島泰治(大島)

(1) 癩は傳染病だと強調すれば恐怖症さへ多く出来る。其の程度を「結核」と同一で結核は内に、癩は外表に多く來易いと云へば感染とか、経過に對しても素人に想像が付き易い。又結核と同様患者の周圍に癩菌の受菌者は多數あるわけで其の保菌者中癩を發病するものは極めて僅かではあるがこの保菌者から癩發病を防ぐ豫防的措置研究も又新たらしい問題である。

(2) 結核と同様癩の發病はないが、癩性虛弱者も相當數ある筈である。癩虛弱者の救療問題も國民體位向上の見地から考へられてよい新たらしい見方ではあるまいか。

(3) 癩患者2萬に對する費用と云へば死命と誤解する人も多い。が癩はどんな家庭にでも出る危険がある。一億國民の癩恐怖を永久に除去するための費用と云へば分り易い。一億國民のため、血族150萬のため、大東亞共榮圏内200萬の癩患者救済のためと云へば死命とも云ふまい。癩啓蒙運動に對する新たらしい見方ではあるまいか。

2, 3 臨牀例供覽

根 岸 博(岡大皮)

シャンパーニュ氏病, 毛囊性面皰性母斑其他腎
孟 X 線寫眞等を供覽せり。